武江年表

八

839
8
62

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62

ガラス使用

武江年表巻之七

寛政元年己酉　二月廿九日改元　六月閏

○天明七八年の頃より碑文谷法花堂の仁王尊堂修成就せるよりして貴賤男女参詣する事なり次第に群集夥しかりしが十二年ばかりみて絶えぬ　初詣の若干合をもて終る又日参おもなりし　○二月甘露降　○米穀豊饒なり○永代橋小成田山不動尊開帳なり年納物あまたなり参詣集る○浅草観音修覆○五月十九日僧師入江北海卒　名貞孫左右衛門　下谷坂本住人

閏六月十七日より目白長谷寺竹生島弁才天観世音開帳

○七月七日狂言作者世話師惣川春町卒　通称倉橋寿平　筆さきに画作も多くなり市谷浄瑠璃ちかく

○七月七日狂歌師平秩東作卒　内藤宿畑奴金右衛門つとに云市谷長善寺

○八月八日大風雨家屋を損ず深川辺大水○八月市谷光徳院内に川に鯉放す地蔵尊開帳○角觝人谷風梶之助小野川喜三郎横綱免許又九役就

根岸信輔氏寄贈
昭和九年一月寄贈

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

と云る角力取行る○十月より始り大川筋元永川に新堀清洲築地
取掛せしも翌年ふいり元の水面となる○十二月廿日夕より夜へかけて再甘
露降○深川寺町法華院不動堂流れ出し行衛の者多し
○本所杉代町本所火除地代地浜川弓場戸田東女正殿屋敷
の地をなつる○神仏の開帳年ふ盛ふしく数多ありしかど寛政より
享和迄の分委しく誌せる物せるに尚穿鑿して次編に詳あるべし

寛政二年庚戌

正月廿一日本所杉代町より出火砂村百姓逆焼る○三月九日西人劉安
生卒　号秀山森布曹溪と云人○三月十日下谷稲荷社祭礼産子町々より出し遠物出
る　本来の時は産子の法度より出病流の警示と聞へ出る迄中絶せり○永代寺内京都大仏の内弁才天開帳の
分焼肉見せ物ふ壬生狂言を出し世る行れて面白なる物とし幣箱

の輩も酒宴の興ふられ世るつ○神奈川浦賀新世青江戸ふく開帳
正本洋天宝年　号を彩雲と云
○八月十四日狩野栄川院典信卒　享年一才○八月廿三日前句付点者
川柳卒　浅草新堀端宮ふ奉仕川柳八同寺門前の地正中て柄井八右衛門と云人俳諧の一番
俗称を右衛門と称る者を俳名を柳と称し初代柳樽と号し数多篇を撰ふ今ふ伝流さる人多の
緑亭川柳五世ふ及ひ柳樽の后輩年ふ不絶行せり按ふる不宜雷の比武蔵川といつる
能諧の句集あり世ふ俗諧を述る川柳もふられ世しものとなん
○九月六日儒師山中天水卒　八十五才名知を称猶卒　○十一月廿七日夜大地震
浅草行安寺ふ葬る
○十一月琉球人来聘　正使宜湾王子　宜湾王子　蕃来の名ふて富士を詠る
○十二月二日二日夜甘露降　○潮田岡巷成　天明より二度ふ絵名真雄を岡蜀山
武江の雑事ふ岡巷の書あり
○琉球船刊行　表為中哀著　又朝鮮筆談も刊行せり　○磁器焼絶始る

同　三年辛亥

○正月十五日儒師平沢旭山卒　九十九才名元愷称五郎　○三月十五日より五十日の間浅
作川法禅寺ふ葬る
芝寺新世言閑話○市井の法令を改る也物用の費用を減し積金始る

聖年六月移櫓向一所令所長報発を創建あり是来賈貴踊のこと
或い不時の災変の御城民を救ふ[illegible]の御[illegible]の御[illegible]
庵ゞ寸子中沢道二（系西津系医院居龍孫久云説）江戸に集りて黄場町なる医師前田一貫ゞ
宅にて[illegible]学を講じ[illegible]ゞ[illegible]集りし[illegible]
前舎を建て講堂の形[illegible]道二[illegible]
[illegible]（参考舎は今ふ相模[illegible]）
[illegible]
塩濱松平豆州侯御下邸と成る○六月加茂縣主季雪個為住吉の社
第一碑を立る始ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
○醫学館日講始る○堀町河岸あき駝を見せ物とし（[illegible]）
[illegible]

○八月六日大風雨小田原辺より江戸近海辺に潮上る○町火消纏張箱を
改白漆塗とする○八月十七日麻布牛村氷川明神祭礼出し絵物出る（休後）
○八月廿日蕃書より雲出海明り蕃書より大風雨明七時止む
○九月四日大嵐時夜中より大雨南風烈く八月より強し已刻高潮深川
潮時一張りて[illegible]入船町久右衛門町[illegible]
門前[illegible]建つらる町家住居の人数と共ふ一時ふ海一流きて[illegible]
[illegible]天社損じ拝殿別当ふ[illegible]外流失[illegible]の浪[illegible]
つぶれ民家流失[illegible]外洪方家[illegible]損し川[illegible]溢る晝時ふ[illegible]引く関
[illegible]筋[illegible]洪水[illegible]（諺ふ云蟹[illegible]遠[illegible]洪浪の北[illegible]）
[illegible]の地[illegible]浪の変
[illegible]西の[illegible]船町張東の古祥寺門前より[illegible]迄凡長弐百八十五間余の
家居を取[illegible]畑地[illegible]（此内西の[illegible]入船町[illegible]
[illegible]氏[illegible]）○九月十三日俳人夷秋庵

白雄卒（平三郎 品川 法号 晏子 ふ 墓ハ）○九月廿七日儒師松田牡齋卒（名長蔡麻市 天明三辛丑 墓ハ）

○神田明神祭礼年々御雇出多出し始り（享和より 往業ふるう 後文化 年中より 踊りふるそる）附記ハ

三組と成る（年番ハ初め一ヶ所より一ヶ所ツヽ出ハ 後年ハ年ふ超ス一ヶ所の頭絵物男物ハ出ハ）○十二月九日田向院一会せれ永代

ちふおいく溺傷流死の者施餓鬼修行あり○十二月十四日十五日神田社年の市

始る（浅草市ハ 後年廿日廿一日ふ改む）○十二月□日下谷火事○（深川洲崎名物の荒そば九月三度の後絶ゆ）

寛政四年壬子　二月由

二月初午の日芝日比谷稲荷祭礼麻子町ゝより出し絵物を出ス○二月七日

麹町火事○壬二月六日詩人安達文仲卒（名僧号法海 三の橋 墓ハ）○四月の頃より米價

騰揚ス○五月十四日彩井白蛾卒（平次 称藤吉と云 易術ふ名あり）○護国寺ふて秋父三十四番

観世音開帳○六月十日山王御系礼附系三組と成る（神田ふ同下されど ハ雇多ハ 本町外式丁より出し 系ふ絶ふの外ハ

ふれ ハ）○六月飯島孫安側ハ町舎所数義を建る是迄ハ大的場ハ

○六月十八日亥刻光物西南より東ふ向ひ飛大さ盆の如し○七月廿一日亀戸

梅屋敷の梅舊根焼失ス（江戸砂子書入ハ年ふ帝ふあり）

○七月廿一日南大風已上刻麻布并猶より出火 死人今井谷赤坂青山比谷

金杉麹町 番町飯田町小石川御門小川町三橋稲荷の社辺迄焼亡　此後

番町麹町の裏ハ火除地出来る（此時迄番町ふ天正年中の家作も地と云）○牛込神楽坂通西側ハ山下

伊東家邸あり之除ハ樹木孫石孫ゝて生しゲ此時麹町の善國寺と肥田

伊東の邸ふあれり後又此孫安町家ハ改まり○八月十二日西人松林山人卒

大川ゑさ 志ふ墓ふ幕　○西本願寺御堂再建（紀州和方山構中より寄進 寄者三十二人 内八人手別の 名ゝを掲示ス 代ハ一ふ建る 恥しき建方と云て所

堂間口十八間 奥行廿五間 延享年九月成就ス）○谷中感應寺（今天王寺 五重塔ハ 和九年二月廿九日焼る 後

今年再建あり○十一月七日儒師千葉芸閣卒（名言之 称茂右衛門 千左木徳 墓ハ）○十二月八日

深世繪師勝川春章卒（浅草西福寺ふ葬ル 号旭朗井 能優肖像を画く 自上手あり 門人

喜好 実英 実光 実山 喜雄 喜林 喜徳 喜玉 実麻 数あり）

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

○十二月十八日下総八幡八幡宮社内欅の古樹七抱余なるを古稀七ヶ寸三尺
深り二尺二寸元字元年酉十二月十七日別当知田と彫る

寛政五年癸丑

正月関東地震○麹町若宮丸吉年火除の為地を召上られ祇園坂ふ代地を
あたりけるが今年二月蓄清成就して廿七日畏御門天満宮あり○二月浅草寺
奥山ふるくてび楊枝株を裁る○三月六日より茅場町某師境内を房州境
が浦西行寺為彩法師像開帳○榎坂神明宮内天満宮開帳○六月より
九月まで江戸霖雨大川出水○九月廿日書家荒木吳江卒　号東水九山　長寿ふ葬る
○九月先達て魯西亞漂流して帰朝せし伊勢白子の船頭幸太夫磯吉江
戸へ来る　天明二年十二月駿河神昌丸伊豆ふ逸ひ漂流せしと云ふ後吉今年廿八年にしが内外の駿
程なく死しなり幸太夫八今年四十二才仮田町の内某園子あり七後吉寿七保てりと雖
○十月廿五日湯島松平雲州侯屋敷より出火神田多町石町堺町

葺屋町芝居日本橋辺迄類焼す○十二月御系上を下町孫の内須田町
二丁目小柳町平永町ふ北例を取掛りを外神田ふ代地を賜り明地ヶ
成後ふ救蔵七遷らる　町令所救蔵の遷場あり
諭号尚庵明和四年九月廿日卒行ともふ弱迎吉祥寺中
門泉寺ふ葬る若ふ漏せ一宏ふ為る

同　六年甲寅　十一月国

正月十日未中刻糀町五丁目秋田孫右衛門某といる酒屋より出火烈風にて
山王御社永田馬場震が関虎御門外横田辺迄麹屋藩邸牧字数焼幸橋
御門焼屋宿下日蓮町新橋芝新孫産仙蓋金深家ふ一国焼亡せり
○正月昔仏人金羅卒　号帰正覚る　ふ葬る○二月廿八日儒師吉田子方卒　根岸
居住ふ葬る○三月幸橋御門外兼房町和泉町飛沼町伝兵衛町伏見町若右
衛門町久保町左左衛門町ふの内火除の為町家を取掛ひ思地とせられ

当時の所々に武家地なる在りしを外へ移されて代地をあらる
○川口善光寺如来開帳 糸清摩集に七川口の渡り船覆り怪死人多くなり
○四月二日亥半刻吉原江戸町弐丁目より出火一廓焼亡 仮宅田町聖天町山の宿元町迄出る
○四月十七日青山梅窓院主蕃山和尚寂 詩及ひ書よくす
○四月廿七日儒師菅野谷徳卒 名義直九山布妙なる人義
○六月十日儒師街茶里卒 清茂号四竟なる人義
○八月十九日国学者林清島卒 林和助号梅居士清隆院と称す男七歩校といふ文化五年卒す
○秋半所々の横溝に門匠製造まて横板を敷く 文化五年よりてえの如く横板を敷
○十月晦日哥人伊藤松軒卒 号倚松庵青山梅窓院と称す
○十一月三日子刻大地震
○十一月四日象刻蔵六居士卒 字新吾山号蕃人
○十二月廿九日将軍家徳高信卒 幸宗清川浄名号
○江戸地義巡行所を定む 寄合旗本の内
○四神地名録写本成 古れ彩黄薇山人編輯 を郎の名を記す
○出羽国より大童山文五郎出十一才 肥満して廿二貫目あり角力を取ること年

長じて弱くなれり
○当道大記録成 写本一冊 一ツ目弁天社役 深尚深義著

寛政七年乙卯

○正月九日谷風梶之助終 行年六才 仙台人義 見負あり角力元あり
○四月十日西丸大風市谷御門 名庸 称次郎左衛門 八十一才なり 伐芝居焼る人義
○二月十三日書家細井竹岡卒
○三月十八日より六十日浅草観世音開帳 雷神門再建成る 三月十日示
を安置す
○六月七日儒師清水江東卒 卒す谷の商家大坂屋 とりふ人義述もいり
○六月十五日夜大雷廿六ヶ所に落ると云
○七月八日儒師市川雀鳴卒 名匡 称文門 号十文字 西羅先生と称す人義
○七月十三日星月を賞す
○八月七日梅柳軒重明卒 称伊兵衛 号東 上州松井田の産 京の流月
師の門人なり 和名あり 寿七十三 谷中天王寺中に住す人義
○八月十五日深川八幡宮参詣群子町々なり
出す 絵物出す
○九月十日儒師三浦瓶山卒 名衛奥 称左六 清和 中の名 徒者なる人義 男を吳山といふ
○秋西他米穀價登揚す
○九月廿一日青山久保町熊野権現参詣者

所々より出し絵物を出す○十月十二日太田大洲卒 七十歳名法元年所大法を会業
おこなはるる人なり

寛政八年丙辰

正月白牛酪黄弘の事を命じ給ふ 享保中房州嶺岡ふ白牛を放養せしめて白牛酪
製法を命せらる是は僅ふ三頭ありしが代々を
を七年除ふいくら伝て授斛の乾酪を製せしめて多く世人を救ひぬ 御恩澤ありしかるに
こゝ寛政壬子五月桃井源寅白牛酪考一巻を撰し献ふ行る

○二月谷中感応寺毘沙門天開帳○夏失口新田明神再帳○芝泉岳寺
釈迦八相曼荼羅開帳義士の遺物を見せしむ○四月十二日狂哥師東陽菴
光章 称海宇古稀つ別迦 瑞春寺ふ葬る○六月九日名越明神奈礼神輿を渡し出し絵りの
ふ中しきり甚後中絶す○六月十四日書家澤田東江卒 六十歳源鱗一号玉為
親ふ葬る○九月幸所ふ古刹修立和建つ○十月四日孤汗軒淑名貞雄歳卒
八十一才 古実考を又江戸地理の出編集なり ○十月琉球人来聘 正使大宜見王子
四谷戒行ふ葬る
副使 安村親方 柴野彦輔琉球人を
茶法絵巻あり ○十二月六日儒師黒沢雑岡卒 名萬新 称右仲
八十歳

同 九年丁巳 七月宜

二月廿八日牧野洞春卒 名英信 上総
浅ふ院ふ葬 ○春三田魚藍観世音再帳○牡丹江
の為弁才天開帳江戸より清人多し○四月廿七日西人三輪花信麻卒 名八 在栄
猿を原江の為弁才天ふ参り河岸の卒ふ猿を画き
類多しこれ今八見えず 四谷勝身寺ふ葬る ○猿江泉養寺庭中の蓮花
牡丹花葉ふ生じて咲くこと稀なり○六月三日狂哥師英ふ載仏寺の
唐丸卒 号孤宝三郎と云絵巻紙や 山谷正法寺ふ葬る ○橘の異品を美ぶ事流行 橘品異端品類考ふ
○七月六日大雷所々ふ落る○七月十日中村佛庵景連 ふ家
そ社ふ宗鍔を伴ひ浅草ふ新世音(清しの)所和中大川の辺ふいくつ水面ふ
天満宮の木像を切て享和元年深川法禅寺ふ安置す 祖天満宮と称す ○七月廿日
吉実出真野是義卒 名安通 称七郎 ふ十二才
翌朝所ふ流ふ葬る ○十月町出消人出の内始て二百七十四
人の頭取を命ぜらる○十月廿二日義崇家臣酒屋邸向佐久間町の出みや

より出火某所堀の辺より大川を越深川六号堀八名川町へ飛海辺新田未
場迄焼亡○十一月廿二日武器古雲若林系斎山卒 名長俊称学斎天文中了侃ちゃ義に
○十二月十八日醫師宇田川玄随卒 名晋号槐園蘭学の中
妍家津富卒 年七十八今戸 ○東海道名所圖會六冊梓行 梅里雞窓著 名家合画
○和漢年契一巻梓行 播州の人高畑著太平記の本二部あり又寛政十一年梓行の
人ふて恵光子編和漢年代撃要一巻を梓行す

寛政十年戊午

改暦頒行 寛改暦と号○二月十九日俳人小菅宝馬卒 一日ふ五十日魯行！
年堂と号七十二才
○四月金彫工六森英秀卒 六十九才 号湯英 ○五月朔日石川神より鯨
上る長九尺巾三尺余餘あり 此比何日のものなるや詳ならず 国内山の上ふ死竜を以て大仏の像を造り相油
巾を色々に海上より 遠ふ見えそりとぞ ○六月廿三日医師人見孝良卒 本所本法寺の中
○六月廿三日画人梅里山人卒 名図御瓦師なり 本所院ふ葬せり
中の名成称るる ○七月より深川新大橋

の向ふ物義を建らる此所の町家半迄青町の辺ふて代地をもらひ人
今の半迄岩戸町之○九月一日儒師岩田董嶽卒 年八才 名中大雅るふ
○九月十一日狩野永貞恭信卒○十月廿八日茶人宇治宗徹卒 号波月菴 西ノ丸ふ葬に
○十月廿九日初夜ふ当りより星ふて光ん〳〵夜まだ明るふ至りて空の乳
色一面ふ雲の降るが如く見え〳〵之○十一月三日昼星の飛ふるが如〳〵
○儒師岳麻谷卒 名之浩称弥市郎崇義 ○十二月十二日狂言師茂樂當河卒 六十一才 称山崎
名安半迄二千石町ふ住 青山青侯ふ葬に 七十二才 月日不詳
辞世 執着の名や婆婆よ捨るる岩野の雁 文科の月
同 十一年己未
正月廿九日 二河町より出火神田辺町迄焼亡此時後藤倉河岸
町迄十間通り残りなく焼る同ふ河岸此迄焼亡 ○二月十五日三圍稲
荷開帳 奉納造り物ふ多くあり日本橋白木屋より文書類ふて法ふ牛馬本貴の木偶を
仏世間様の作物ふ多くつくりの始ふて来清華集ふ多ふ

○聖堂御再建境内廣ごうて大度落成○湯島風閣ち富山修験解脱 青山久保町（猿る湯殿ふのりし）亀有町（代地なみつ〜も此時あり

○三月 役行者千百年忌勅して神農大井の号を揚る○霊岸島埋立地ふ眺実地産物命る所建□ 止む ○夏 寺侍村法泉寺繁昌ふ勅を開帳

○五月四日より谷原村 練間の辺 長命寺 新寺邦とりふ 山門讓来の福人の面ふ那とする見物多〜○七月六日夜大雷子刻ち大雷雨○六月十九日儒師佐久間文示卒 名維章 号山 ○八月青山海蔵寺の檀家和泉孫左衛門ご家ふ（比丘尼なり 刑罪の首級六百を埋く當寺ふ墓供養の塚を建る

○十一月十九日夜巳ッ時より大雨大雷数ち而（降る

寛政十二年庚申 閏十月

正月廿六日夜谷中いちは茶屋より出火近き寺院多く焼る

○二月廿三日夫寺刻田圃龍泉寺町より出火吉原京町（飛廓中焼亡 仮宅田町 聖天町山之宿及町 鶯谷越山谷町 横山町 ○七月朔日より護國寺ふて秘又三十四番観世音開帳

○四月廿九日閑其寧卒 六十八才 称源義男恭の養子 小日向 称名るふ墓ふ ○閏四月七日俳人山門花縣卒 六十五才 夫秋秋と号 麹町 ふ住るふ墓ふ ○五月十一日宮儒服部栗邨卒 九十五才 名保命 孫若義

○銀座常是銀座町より蛎売町（移る○九月十日唄うたい湖出市十郎死 谷中 殉死るふ墓ふ ○十月六日金雕工菊岡氏祖光行卒 年 ○同廿日書家伊勢屋与兵川卒 名茂之卒 法恩るふ墓 ○十二月廿七日書家稲葉華溪卒 五十才 浅草 西福寺ふ葬 ○江戸往古図説成 写本 文政 分長著

○今年富士山（女人の来登るふ ○浮世絵類考成 写本一巻 山東京伝著 著 邦教 追考ふ 又武蔵三国人の本名を江戸 溪 英泉 博 補して三巻ふ抜粋 浮世絵ふ文詳 又芝居 英一蝶 宮川長喜 市川 祖ち〜江戸ふ名人多〜文政 寛政の比ち 剛人 刷人の上ふ出て巧を尽し次第ふ奥羅の地出来て方初の中一と為れり 法ふふまふ ふ初あ 也ども江戸ふ及ま江

此年間記事

毎月晦日上野の大師遷座の時系譜纂集する事寛政の比より始まり
此時代名家〈儒家・山本北山・亀田鵬齋・細井平洲・服部栗斎・柴野栗山・
古賀精里・新井白蛾 易術を・〉〈画家 高嵩谷・谷文晁・董九如・長谷川雪嶺・
鈴木芙蓉・森蕙斎・〈狂哥師・唐衣橘洲・尚左堂俊満・又深世俗・狂哥堂
真顔・六樹園飯盛・蜀山人・芍薬亭長根・〈浮世繪師・多文齋栄之・
勝川春好・月耕英九徳斎・東洲斎写楽・春多川哥麿・北尾重政・同
政演京傳・同政美・蔦屋・蔦屋俊満・尚左堂と号・狂哥師なり・葛飾北斎・狂哥の狂物讀本を多く画く・哥麿
歌麿・歌撫・栄松斎長喜・栄徳斎春童・田中益信・古川三樂・慌等・
金長・もどき・狂哥・或名弘の狂物を刻人形工の巧をつくし花葉を極る事此
時代より盛なり〇曳尾庵の我衣を著栄学医の始祖なる中川須菴志保子
子かど果さべ生後奥平侯の侍医前野良澤号蘭化ふまひ事なり乎門

人杉田元伯・宇田川玄随・桂川甫周・大槻玄澤・みつなり大ふ若ゑしく
此道ふれりといふ〇浅草ち隨身門前の茶店鶯横丁のおきた某麻地川高
島のおひさ芝神明前の菓子屋のおちんこの三人ゑ女の姿えがき
ゑ浅草ふ憩ふ人引もきしば〇吾妻屋の若妓花扇花菖蒲ふ孝行の姿えがき来紅
の清人費晴湖・湖陽ふありてこの孝婦妓が事を学られを賛しる詩あり
曲亭の宴雑の記ふ載せり〇婦女のわざ〜ふてびきあり始む 享和中始りしふ学ふのつり
〇堆朱漆衣類ふそる〇鞠画の裁を行る〇いつの比より始りしか西が京
ふ湯島の牡丹屋太右衛つが別荘ありて花壇ふ紅白の牡丹英を植そふ
盛の比貴賤輩集せり 文化の始ふ 〇酒楼ふ於て書画會を催ふ事此
始る 近比江戸の名家書画俳ふ書画會ハ寛政の比縁会の 偽曇燕といふのよう始りしといふ 〇児童の祝ふ切り組燈
籠俗ハ上方ありの物ハ夫故始ハ京の生洲大坂の天満祭の図柄を重板せり

寛政享和の比蕎麦政美多く画き又北斎も續ひく画り文化ふいより
奇川國貞豊久氏伎ふ工風を匡救多く画き出せり是様今よりなりく
年く拙出せり○人物名戦山水を修業者も四角よ画くの越を行なる
書翰名を彩色拙ゆて商ふ寛政の事より始る○寛政十一年の事より王子村料理孤海老や扇屋元
世ゑ〻きあり○美双紙の多寛延宝暦の比多く古の合戦武功の狂歌或敵討の事を〻や童児の
戯院多りしを明和安永の比より世上風俗の淑慝男女の情態をのべる編輯多く此多氏市
人ふ世る彩れ初雅のくれ比人事ら色を美び功拙を論し清日の於ことふ比ふ至る寛政よりこの〻山東京伝
色を一変せしめ勧懲を旨とし〻多く他もりその内善悪悪のさ〻〻し殊ふ行れ〻り

享和元年辛酉　二月五日改元

正月十四日俳人椋茶菴卒山梅人卒大久保泉翁ふ葬る○正月十八日画人小山寒巌
卒名孟恕　橘協法深ふ葬る○二月二日茶人千柄菊且卒西河岩所の坊ふ葬る○二月十七日一刀
流剣術師中西忠太卒根岸若性ふ葬る○三月十八日より十五日の名浅
丈伝碑文ふ記せり
まる親世音開帳○竜戸天満宮開帳○四月より

深川法禅寺まて武州熊谷ふ弥陀如来蓮生像ふ開帳○五月四日大雷雨
三日ふる○五月十七日官医宇紀永寿院元徳卒七十才名元惠号藍渓
牛塚城宮ふ葬る
○六月十二日板橋宿板橋水車の下より奇魚を獲り長五尺一寸横二尺
巾四五分ゆり僅ふ三寸餘巨口微月ふて鯉身色栗のごとく毛孔斑あり
○六月十五日より田向院まて浅草清源寺新迦如来開帳○六月廿九日儒
師細井平洲卒平洲名徳民号嘉林甚三郎浅草ふ葬る○九月十八日画人蘭欣森文祥
卒小越の人之浅草新堀ふ中村清ふ葬る○九月十八日金雕ふ岩井昆寛卒五十八才
男を蘭曉文良と云医師なり
○紫義絵卒巻板行学問所師板行○十月十九日夜元飯田町焼亡
○十一月廿五日夜神田蠟燭町より出火十四町焼失す

同　二年壬戌

二月廿五日芝神九百年祭忌○麹町平河天満宮開帳○二月廿八日より柏木

村四郎兵衛薬師如来開帳○二月より四月迄邪流行疫民一体救来殊を下へ〜あり（俗ふ七日と云当歟ふ七の小祭なり歟之）○三月八日より木下川薬師如来開帳

○同十日より根津社地不在不の上野尾天神開帳○同十五日より月黄泉天

○三月廿日釜間巨山卒（乃場格の例ふ住せり小川破釜門人なり山号又宵ふ）

る事多間怪霊宝を拝せしむ○三月廿日釜間巨山卒

俳諧を好く風を愛せり

今年六十七歳

○四月朝日より浅草金竜八幡宮開帳○五月十八日富

士迎寿院死（中の名成松ふ義）○五月末の元末荘と云人焼餅を再興し今席を

設く（焼餅ハちいさき紙を焼て再こなり濃茶自五ゆして茶代ゆて魚ちが如く背もありけり

使をあるべし起しる由なり『ちつ〜く出も焼餅のやきて元祐く絶しをおこすべき

こそあれ』資能と云る人のすさびなり〜此才蔵の風流の人ふ〜〜多なりしに某の細工をあせ

ず張板の琴参拝をあるこ蝙蝠を引焼を点てなるを『水ふ〜ふるの美ひも此更より始り〜みや又一張の

琴を弾ひきしくもてなるを『あいらくふ名ふ〜やらふ板琴をもてしてもらそあやなぬ一番』

才蔵一絃の琴ハひる〜一絃平朝日頃廃まそ他り是〜めそりくなそひひ〜そ寸ほこと若身

るを河内国金剛新ち覚業律師その秘曲を伝て建の更ふ授られ〜〜〜之寸荘おのれ

が又の皮ふ〜て文化の寸迄百千余年中て寿生せ〜ふ絶りを如〜ば焼餅ふ今ふ式技を寸物ありを世

い法華と号せり○六月霖雨七月ふ至り本所深川辺浩水平地落る大川ハ雨玉格のを通行成る

武州根津観堂開帳押切とり

○七月十八日牡丹師唐夜橋沈卒（七十六才称ふ雨ふ助）○七月廿六日雨五董九如

平（号廣川居士法業法義ふ義）○八月十二日儒師高原子行卒（名流称林八

弓田宝雲ふ義）

○九月廿四日小石川白山権現祭礼義字明く出し練物出る

○十一月十九日夜六時過ぎ牛込四辺焼亡○十二月廿日深夜ゆ弱迄出火夜明ふ迄

る迄焼る○同十一日根津門前軍屋町焼亡○賊のそぐまそ成（写本一冊森山某

覧延以来江戸の風俗を考へしる其式あり巻末に記りあり

〜〜〜

浅草寺中梅園院と相馬大山禁旅泉寺不安親世寺開帳○六月朔日より
田向院と粉末光明寺雷電説世寺開帳○同日より浅草伝法院より信州
善光寺如来開帳○同十日より廿日の間本所一ツ目辯才天開帳
○六月十八日小学者中澤道二卒 七十九才 深川猪口邨善光寺大塚
嘉樹卒 狂歌者号蓑梧 年三才 浅草本願寺の義侠 ○詩人永原琴卒 八十三才 名伴與 浅草中善寺院の義侠
○七月高嶋漢信冠程翁の図を画く 浅草観音堂の外陣に掲く
○七月朔日より浅草寺中金龍院と相馬大国寺釈迦如来開帳
○同日より永代寺と常陸国阿波大杉大明神開帳○七月より本所新
堀と水戸藩邸新入る如信上人像開帳宝物多し○七月朔日より浅草
寺内心福院と越後頸城郡居多社大国主像開帳 宗居菴日如の名号を授せり
○八月祈系堂の例に勅蔵を建らる○八月谷中延命院住持日道伝律

花〻歳科に盛せり〻と世の元〻○十月朔日伊豆大島焼二日江戸中
所降○十二月挿花の師笠翁歌乱る卒 八十八才 寛政年七月門人本浅草寺内碑を立る 子孫大人の文あり
○後い昔物語成 写本 寒〻のおもむき西系桜江のぬし〻書て 送れり 芳賀氏の宝庫に某の仮名を書る
浅草国園立花貴御下藩結太郎稲荷社利生ありとて江戸
近在の花系流輩集る多し○七月朔日より浅草
いろり絵製昌〻奉納拍山の如く道路に酒肴家宅を列て祝ひ〻一二
年ありて自然と止〻り 『国令の時』『徐七郎』『馬令の時』の筆紙一枚絵小図の事なり〻文化元年花一上人
○群書類従板行 六百三十六巻 塙検校輯 義板なり 節より追〻本上木成。

此年間の紀事

小金井村の梅寛政の比い詠る人もあり山田古松軒が四神地名録より記
〻〻〻〻享和の比より蹴人墨客集ひ〻毎年遊観の石となれり

乃ち之の冊子一枚摺
多く刊行せり

三ツ溪るこの河系ゝ〻彩の雲仕中ゆ〻れのひゝゝゝ　千蔭

○蘭雲系仕今行る○山東京傳曲亭馬琴ゝ漢学者双帝行れて自こ
教篇ゝ棒行す又京大坂より画入漢学者新作なゝ棒行ゝて江戸人下せり
ゝ像江戸戯作者ハ式亭三馬・六樹園阪盛小枝の絞　絳山翁又・ゑ口ゝ　感和亭東武
十返舎一九・振鷺亭・渟洲楼馬・高井蘭山・山東京山　百樹　芍某亭長根
桂文治・稀蕎・梅暮里谷峨　神屋蓬州・南仙笑楚満人・東里山人・東西養
南北・ゝ外多〻　京大坂作者ハ・栗杖亭鬼卵・合浦完月・優々彼・桂浪・文鹿・木の編良
画者ハ・石田玉山・月川人二世・岩田玉山・青陽・北尾国一・峯岳丸・丹羽桃溪・
合川狐和・杜好・夜半・玄清・安川巻秀・速水春暁・英山・画人ゝ
ゝも自ら著述のゝ外数十部あり文化ゝ江戸の俳史を京大坂ゝて奇特の数ゝ
仕組むゝ行
れ行　江戸深世絵師ハ菖蒲北斎・辰政　始春朗宗理・雅る方　後ハ北斎・戴斗又為一と改　歌川豊国・
今豊廣・蹄斎小馬・雷洲　薬画を　盈斎北斎・閑く・樸ハ嵩　後桂　張　ハ書　深絵
上ゝ

葵岡北渓○北尾憲斎・暑画・式と号ゝ浮世絵の暑画を工夫せゝ彩色ハ
の彩色教篇を棒行ゝ○深世絵師二代の絵本書信といひゝものの長篇ハ多り
蘭画を学ひ後江戸ハ移り世ゝ行れ名を司馬江漢と改む又銅板を日本
ハ始ゝ創せるも此人の功　○此ハ遠山水の遠景を画ゝ一枚絵を　深絵と云今此称ゝ
近世奇事考・暑画集二部の随筆世ハ行れゝ
戯作者各随筆ゝ行ゝ事始ゝ棒れゝも京作の作ハ並ハ行ハ
野鄙ゝ多ゝの多ゝ○原舟月・雛人形の製を改て古今雛と名づけ世ゝ行
ゝ○京和中ハ・やれ市ん・巣鳥といふ人寺島村ハ花園を設け四時
の花を栽ゝ遊賞の所と為ゝ奥州の人ハ・ゝ　稲小平　江戸ハ・ゝ世ハ住ゝ
天保の始終れり　巣鳥始ゝ或人名つけて帰宝といふ　文字をいそゝく改ゝとの事ゝ公儀ゝ
ひきこもるゝ　正月園中ハ小書を載て子の日ゝ裏を住ゝるゝ文人ゝど
所の寄ハ　ゝれも引ゝ多ゝ法ゝ多ゝ　千蔭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

或人の説に此地の書名を多賀谷氏とし[illegible]

○漆器を拭ひ[illegible]

賀物の摺[illegible]を製し○籠絵の戯[illegible]

[illegible]の如くふきひ[illegible]

顛童子を思ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

料理[illegible]深川土橋平清下谷龍泉寺町の駄菓子文化年中より盛[illegible]

文化元年甲子　二月十九日改元

二月四日より[illegible]通院門福聚院大黒天[illegible]開帳○二月十七日[illegible]

西[illegible]より[illegible]白き[illegible]雲出る○三月朔日より深川八幡宮開帳○同月五

日より[illegible]弁天開帳○三月より護国寺観世音開帳あり四月十三日

西人北[illegible]本堂の例に於て百二十[illegible]の[illegible]紙[illegible]の遠慶を重く

○三月十九日より田向院[illegible]月[illegible]祖[illegible]霊宝開帳○小日向[illegible]大日坂妙[illegible]

院大日如来開帳○三月十九日後[illegible]氏十[illegible]代桂[illegible]○四月十五日[illegible]

妻[illegible]病[illegible]の祈開帳○同日より浅草清水観世音[illegible]帳○四月廿日[illegible]

三日の[illegible]十一代目中村勘三郎[illegible]あて寿[illegible]狂言[illegible]寛永元年より八十一年[illegible]

○六月朔日[illegible]七時俄に大雨降霹靂大[illegible]人[illegible]魂を抜く此時[illegible]七才の女児を空

中（巻上望月死殺）江戸川より上る○八月四日俳人素樹卒（二十五才俳諧を好し育人に他家去信ちの姜）谷卒（七十五才名一雄号房総谷浅草西福寺の姜）○八月廿五日玄々一卒（六十三才俳諧を好し育人に他家奇人伝の編あり谷中本覚院に姜）○浅草藪の内南部駒の市毎年ゆうゝ尚年より止む是より後八月頃豆蔵門（芸）○十一月廿二日亜人佐脇雪卒（名貫多称倉次号中岳黄浅草堂中村名院に姜）（号ともに画也）○今年諸国老熟之

文化二年乙丑　八月閏

二月十五日より根津権現牛込十一面観世音開帳○三月八日より谷中一乗寺祖師開帳○同十日より巣鴨庚申社境内に京都西賀清涼山金毘羅権現開帳○同十二日より田向院に青山谷光寺如来開帳○同廿三日より永代橋に玉川弁財天開帳○同廿八日より巣鴨庚申開帳○二月芝神明宮境内に勧進角力あり此月十六日八日月奥行日水引といふ角力取所の若と喧嘩に及ひ四つ車一人加勢して大勢とれる

ゆゑ闘諍に及ぶ○三月中旬京都芝居桟敷に出花の女あり芝居にそれを告げ祝ふと云○四月朔日より南沢川海雲寺千鶴荒神開帳○五月俳師神田菴小知西国巡礼の相戸に於て八十八齢の賀筵を催す

仙人沈瀣朝霞の氣を吸く長壽し我ら

有雲や吾蓼ひの生を花　小知

○六月七月両度○六月十九日生麦村辺の川蛍狩あり此時人骨出る多し是古戦場の有る〳〵と云□の善悪不可弁骨を浅草華蔵寺に収め墓を築しと諸説成紛れよう〳〵云ふして七月より来清群集する事駭く〳〵（三月朔日より来清自ら止む）○八月七日豪刹家島蓼斎卒（幸不法思る不幸）○八月廿七日儒師神谷東渓卒（名謙称弥兵衛田甫高能東渓姜）○十月十七日書画骨董

定河津定通卒（此の姫君ふかく義氏卒去の人まで曳尾為ふ 合客さうし一人ふり賜餘小録の編あり）○十一月深川三十三間堂再建成る（翌年寅の二月 羽蜂あり）○本願寺乃名所圖会摂行（秋里籬島著 為村中和画）

○十二月廿五日西人井川雪下園卒（名貢稼源之清坂本為光ふ 義氏）

文化三年丙寅

三月より永代ふかく成田不動尊開帳○同月より護国寺にて河内の玉葛井寺（十一面千手）観世音開帳○三月三日江戸天火西南より東北一昼夜

○三月四日昼九ツ時芝車町より出火坤艮風ふきて高輪田町の通り三田灘及家伝屋浦寄芝辺金杭（物上ちハ 巽隅斗）神明宮義門前宇田川町通り

左右出雲町竹川町通数寄屋橋御門内外木挽町三丁目堀北木町京橋より日本橋迄左右四丁位ヲ日本橋小伝馬町弥廣ヲ常盤橋内外室町

京町通り西ハ縁金町より三河町雑子町伝馬町佐柄木町新道橋際迄東ハ堀留

町新栄町新材木町ヨリ西ハ堀町葺屋町英芝居南座ハ残る丈ケを

富沢町橋町辺横山町馬喰町辺神田川を越て西ハ佐久間町松永町

和泉橋伝法士町通り三味線堀廣徳寺前ヨリ町通りより東京新橋裏通

迄東ハ浅草御門外より新堀通り元ヨリ越東本所ヲ若狭守の辺迄焼亡

此ヨリ先きされる武家町家一宇も残る事なし翌五日の昼ハ時ふいくり

て漸く鎮まり此時大雨降り焼元右武里半幅平均七十丈備後藩郎八十三字

ヨリ焼六十六筋寺名所ある神社二十餘ヶ所町数五百三十余町と唱ゆ又

焼死溺死千二百餘人といへり新吉原ハ焼ふ所の人ひ〻賤民ハ殺の小屋十五筋不人

逃て去ふ憩ハしめ食物を給る此余の貧民ハ米銭をあたへ（此員途中ふみ拾を）

此ヨリ商人或い物ヨリ火を突くものハ又盗賊行れ物を奪ふ人を傷ふ

此火災の時の雑説曳尾庵の家衣ふ云ふ〻〻〻去る母り

○四月廿五日六日の夜二夜三日田向洗ヲて焼死の輩供養の事を

命せらる○四月朔日儒師吉屋昔陽卒名昌祿十二年七十三天
○辯秀堂何某弁才天を信じ金光明最勝王經を書写し清浄の地へ
納んとて上へ立べき石を求ふそうびして亀の形しる石を得り
竪三尺横二尺江の移一年納る○四月廿八日算術師小川秀藏算昌卒中野宮泉るふ
葬○七月大師の系弘法大師開地○十一月琉球人来聘二度讀谷山王子
副使小禄親方琉球人北京親雲上十二月二日終れり此年関東ことに寒氣烈しく雪
此親方上花年疱瘡終りしといふ言海暖氣の雪はれ別して寒さ佛まさり殊さ
大四ま(ま)墓送の時いとてあつまふ人民ことに
大九年
○十一月十三日夜五時葺屋町浜崎町
の家より出火して堺町より町大坂町を焼町鍛冶町飯売町近焼る
あ夜芝居焼る式火の芝居打出しの太鼓と共ふ焼出る○大坂新町の石垣崩れ
を混雑いとん方奉一琉球人列者の日あり
といふ者江戸へ下り日本堤ふて盗賊ふ遇淺草観世音の利益ふて刃の難を逃
ぬれ下り翌文化四年法橋周南ちく其圖を画しあ寶の写揭く寸圖又

三月四日
巳ノ一刻出火
勝坂侯
御屋敷
焼
この時
町火消
の大喧
嘩あり

あり○近比深世侍ふ政より○今年米穀豊饒ふて價下落ふて十月市中分限ふ應ずて
買米を命ぜらる○十一月十三日子孫師丸毛権左衛門卒名利通牛込原町浄雲寺ふ葬る
○十一月十四日儒師壻名明卒号終園孫十六文巣鴨東福寺ふ葬○十月の比より菅原別社書
画展覧の會を催ふ春款を深し○鑑定を小低ふ記し簡ふこあて
後ふ引く○江戸圖副説写本成大槍方長惠

文化四年丁卯

二月十四日明六半時東より西へ光物飛ふ○春雨ふく翌日の日ふく雨
火る○二月廿八日より田向院にて幸ふ勅院不動尊開帳廿二日江戸到着の日構中と号る
の賊給錫杖法螺の類を持参延る幸元千人計り次ふ山伏数十人兜巾篠掛にて二列ふ列
に次ふ大ふる斧を撞る山伏廿人計り法螺を吹く次ふ山伏八人人廚子弥宝を奉る其後ふ住
職雲ふ幸一伊達侯ふ打物を持せ供奉の山伏大勢中ふ異形の出立するもの近来是程
なる江戸への開帳なく一去年の琉球人の列より殊ふ目ふ一と云あつ又開帳終りて大後藤こと
号し一次来の内ふ火を起し山伏大勢契火の上を素足ふて渡り行所代来すのまこそ見物
群集一騒内混雑して怪奇人もなり程なく此事を止られしと云

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

○二月の頃より品川宿横町の方 霧屋何某といふる驛舍の抱阪盛女つる 今もサキ阪 往時中の茂
といふる衣類刺文 縮緬 六尺七寸容色よゝ弥増しきるを以て遊客多く此家日夜繁昌せり 後二年を経て廢れる故已の事ふるに寄り茂盛せる故淺草に改め淺草柳橋の向へ大女の力持と
手し看物ふ如き碁盤をひく 蝋燭の灯を消し口中に筆を含み角と交をなし
書をかゝしなる又面白
度ふ賜つも出るなり ○三月朔日より永代寺にて相州鎌倉補陀洛ふ勧る大日
如来文覚の像開帳 英同時なるゆく 宮根山権現開帳 ○三月九日戒化若事仙矣
楚満人卒 芝山光院 ○三月十日より大塚護国寺開帳 ○四月朔日より
湯島社地にて大塚大慈寺見耕菴火防造酒地蔵尊開帳 ○同日より麻
布宿社地にて都築郡折戸村法福寺開帳 ○四月朔日より浅草八幡
寺町大仏寺にて紫中山法華寺奥院祖師開帳と共ふ京都頂妙寺二天
王開帳 ○当夏両国橋辺大川多涼出 ○六月朔日二日大雨金銭降るかゝし
○六月廿日中平井村百姓反古といふりの逆井村の川面にて蜆を取るとき

義の内ふ日蓮上人の像を見て平井妙光寺ふ納む ○七月十九日より深
川浄心寺ふて多延山七面明神開帳 ○五月始より猫死ること事驚し
○八月朔日より五十日の間浅草観世音開帳 今年法堂修復成る会仏堂の前ふて
仮堂を建て 永禄年間草庵
○八月廿日より田向院にて下谷通新町国通寺黄金観世音開帳
○八月六日算術師荻田権平定資卒 号雄山 ロ谷西寺ふ葬る
○八月十五日深川八幡宮祭禮 満年ふ法しけるを十二年ふより空焼ふて休みしを
しふ今年ふ一ぶりふて出る者多の町々家々ふ記ふ
雨天ふて十九日ふ延る同日達子の町々より踊り遊物ふて出る 江戸中ハ
いふふ及ばざる近在より見物出て是ふ時霊巌島の出しねり絵永代橋の
東詰まで来りし時橋上の往来群集の人共中より泳川の方へより
る仏三宮社を崩崩しより人ふ崩れて強より為るものもいるとなる
事多くていや上ふ重りて落ちて水ふ溺る助りしい稀ふて川下の方

屋とあり〻しかれども五百人隊といふは唱へたる物ふ中〻なる
家族の若かく大方あるべき新大橋の通路止りて西國橋を渡り迂ひな出る
りの昼夜引も切らず　官府より厚く令せられく水中死骸を引揚し
め男女若ふを分ちて大張ふ積並るを家族為る来りてあく〻野辺
送りをあはれ悲傷のくるる目もなりてくれぬ事ともなりしとぞ　溺死の家族来る
この時類未曾の流行といつる　ハ月廿二日　九ツ時過井橋辺古松大枝折る
至紙ふ委しく記せりとあむ　○八月氷川明神本社造営より年ごろざるふ崩れ〻り○此比西の方ふ幕
星ふる○脚夫地獄動あり○一石橋の橋杭嫩木の樣なりしが一面ふ芽を
ふき雑草茂せば○九月三日酉の刻ふ東より東へ光り物飛ふ大サ鞠位
ふく青きなり○九月十八日秋田明神祭礼御産系ふ三河町二丁目二十日
より子供相撲を出る○九月廿一日青山熊野社現系礼出し練物ふる

を後休む○十月四日某人川上不白卒　九十三才号孤峯又田沢仙始不羨と云千の
谷中安立寺ふ墓ふ墓ふ墓不ハ天明元年生ふ中ふ管むふ中央ふ石地蔵を立大袋ふ形法と鴨
生存ふ戒号を彫るしふ碑あり右ふ鶴嶋大臣の如きものの剣を携へ以上ふ巨石をいてきれる
石像を彫りふの　○十一月高海上ふて蠱屋と云海獣を捕る
○十二月一日官儒柴野栗山卒　七十二才称元蒲号古愚　○同十六日儒師荻生鳳
大塚氏庶嗣山養ふ
鳴卒　名天祐称忠右衛門　○十二月晦日夜永田馬場火事
三田岩ふ移るふ葬ふ

文化五年戊辰　六月閏

正月九日十日大雪降五十年来の雪といふ所〻折る○同月廿一日更人竹沢
蓑渓卒　名雅房俗称
市谷葬るふ葬ふ　○二月朔日夜大雨大雷○二月十三日狩野養川院惟信
卒　六十才　○三月十七日より市谷柳町光徳院親世寺開帳　又文化七年午の四月も開帳あり
○本所本佛寺鬼子母神開帳○三月七日更人関田陶丘卒　玄對の男なり
慶尾光林寺ふ葬ふ
○日暮里ふ従一位日野資枝公御寄の碑を建る　今年の法縁之常井水戸産沢戸徐川安定の後人
保延貞とい人建るあり

赤ある日ふゝしの里に花の比まで残雪葉して住家を賞するに或の分あるとも〜うん

あれ〜ぬ〜咲そ〜花の名をとゝ〜ふ日ふしの里を雪そふ

○四月九日俳人杉露庵雪鼎卒 然沢氏大塚光徳院小墓

此隆る祖師開帳○六月初旬より雨降暫く降り十六日より十八日迄江戸

及近國洪水溢る米穀價騰し○六月貧民に仕救米被仰付賜ふ

○閏六月朔日より田内院より菖蒲の開帳○閏六月二日俳優尾

上松緑六十四才田内院に於て昔の俳優小平次が幽魂を吊ふして施餓鬼

を修せむと群集せるに駢〜為して後彼の事を狂言に取組興行

しける小見物山をなせりとよろこぶ事なりしに崇ありし事を忘れて其

后八月ふるさなふを名を唱へて此物言を使ひるなり○壬六月十八日より

廿日迄大雨降再洪水溢る○七月田内院より野州那須野光明寺玉藻

社開帳○七月廿一日夜に入雷少し〜鳴雲六時より大雨魚を傾るが如

○七月廿音昼九ツ時より南大風雨家屋を損じ怪赤人多〜豆羽根船

七十除艘覆る又酒船入洋絶て市中酒なし○八月田内院に於て昭年

永代橋水死の非人一周忌法事修行○八月ふいうても雨繁く降り七日

八日大雨江戸洪溢る○九月二日加藤千蔭大人卒 七十二才本所田内院

○十月芝金杉円珠寺七面大明神開帳○十月四日この日湯屋湯代を

減じ又の即死するよりふて半銭入湯する事なし〜元文元年の例も加ふる

事なり〜〜〜○十月十一日書家細井錦城卒 名知雄称義右衛門廣澤の孫なり

○十二月十九日書家服田赤峰卒 名順称卯右衛門 茅場町村治郎右衛門 麻布園林寺に葬る ○浅草の辺りに不思議なる事ども

文化六年己巳

正月元日大風雪六時巳左内所より出て江戸町四日市小網町照降町

新材木町堺町葺屋町吉座芝居町彼町元濱町辺武家方之
より出火して本所表町辺焼亡し夜九
半時鎮る○正月廿日より烈風吹て火事度々なり○二月永代橋
新大橋大川橋交負人止る　菱垣廻船積仲間引受不成り渡船止む
○二月廿日夜九時牛込辺火消屋敷より出火番町の系近焼亡武家方多く焼る
○二月十日八日雲母坂隆寺祖師宗旨○四月より行徳領る法花如来
開帳○三月廿四日弱辺田寺にて八百屋お七が百廿七回忌法事の為細雨降れと雖
清摩集歌一冊葬儀の砌出せる歌也○四月二日儒師伊東藍田卒　名毅年称金義七年八月弱辺
敬軒岳と号す　吉祥寺中洞泉寺に葬る男子
然也岳と云○四月より七月迄江の島弁才天開帳○江戸より
奈良鹿一匹江戸迄来る弁才天開帳なり○五月六日儒師泉豊洲卒
年二十称弥太郎名吉達　浅草光明寺に葬る○六月五日より田向院にて常州真壁郡紫波神
開帳○六月廿一日官医桂川甫周卒　五十六才名国瑞号月化老人　二本板上行に葬る○六月初旬
葛加茂文殊村に院堂の和尚木樵に成り花多く咲り江戸人見物人多し
○七月橋場祇園宮の内にて武州御嶽山深雨○七月十九日より本所
本佛寺にて甲州石和遠妙寺祖師開帳○七月浜川宜雲寺に英一
蝶の墓塚を築碑を立る　市野光彦文を撰し英一珪これを建
麦の刻より廿四日迄大風雨家屋を損る事駿河の国にて吹荒る
伊豆房総漁人多く溺死す○八月ト者成田朝辰玲々森八幡宮境内
小理塚を築く○今年洪國豊他之○九月朔日より三十日の夜牛込岩
戸町南義院弁才天開帳○浅草報恩寺田系所向より今の所へ移る
此時東本願寺の地所賜る○九月廿日詩人谷麓谷卒　八十一才名幸脩称十次郎画人文晁の父之
浅草源空寺に葬る○九月廿五日儒師篠本竹堂卒　名廉称久二郎　四谷南寺町栄林寺に葬る

○湘市日記三巻写本成　右田弟畝先生ハ用ヲ[illegible]ク　[illegible]川の辺往歴あり[illegible]時の紀行ナリ　○十月三日四日大雪　十二月廿日解ル

文化七年　庚午

正月廿日より浅草大仙ヨリ[illegible]依渡塚ヲ移ス　祖師開帳　○同廿七日物産家小野蘭山卒　八十四才（一説ニ六十七才ニ成ル）　浅草[illegible]ニ葬ル　○二月廿日より川口善光寺如来開帳

○二月廿日より平河天満宮開帳　○三月七日より田向院にて越後国乙宮ヨリ大日如来開帳　○同十日より浅草五泉ヨリ[illegible]て鎌倉松葉谷長勝寺祖師開帳

○同十日石原徳水兵衛天開帳　○同十三日より十九日迄浅草唯念寺にて同廿一日ヨリ廿七日迄淵池法泉寺にて四月朔日より七日迄浅草弥念寺にて下野高田山如来開帳　○三月廿日ヨリ[illegible]浄瑠璃竹本住太夫死　築地本願寺中某院ニ葬ル　○四月朔日より浅草祈稲荷明神開帳　○同八日より深川浄心寺にて新曽我祇園寺祖師釈迦如来開帳　曼荼羅を拝せし　○五月十一日狂歌師萩野屋裏住卒　七十七才　金吹町ヨリ住ス[illegible]の表住と云ふ　[illegible]の孫の弟ヨリ[illegible]　深川法禅寺ニ葬ル　○六月十五日より田向院にて

嵯峨清涼寺釋迦如来開帳今年ハ例より来詣多し　○六月廿二日廿四日白金覚林寺にて清正公二百年忌供養開帳　○八月朔日より護国寺にて信州産光寺村元善光寺如来開帳　別当産光寺　○九月十九日加茂遠塵秋卒　七十七才　この翁ハ猪苗玉蕗の[illegible]人ニ[illegible]丹青を善し経文を以て仏像を画ク人之服[illegible]毋ちゐ寛政八年成就し[illegible]ル五百羅漢ハの像五十除幅あり大典禅師ニ礼を賞し[illegible]ル　文化ナリ尚ちゐ孫[illegible]

○十一月十六日東本願寺御堂再建上棟の式ありし　文化二年[illegible]ヨリ[illegible]　今日参詣の男女未明より群集し供物飾物ハ同じ[illegible]ヨリ多し　○此冬マグロの魚漁ある事[illegible]し　総豆腐の三[illegible]ヨリ棟梁を石塚志摩といふ

一日ハ一万本を獲るといへり　○十一月十七日儒師諸葛琴臺卒　名蠡号鬢髪　下谷養玉院ニ葬ル

同　八年　辛未

二月同

舊冬より雪多く[illegible]ル正月十五日雪十七日大雪　○正月廿四日夜四半時ヨリ浅草茅町二丁目裏より出火裏通りへハ出ル裏河岸物揚万八楼迄焼ル三町ハ一町程ヨリ早美度くヤケル　○二月十日契風申刻市谷谷町会佛坂

より出す四谷赤坂麻布西窪飯倉赤羽坂上寺文院三世彩焼亡に付焼死の者二百餘人と云〻○二月十三日村田春海卒六十六才錦織史一名琴後翁称平四郎と云國学者にして和学を世に弘くるの書多く賜へりと云〻

[illegible]

閑帳○同二月十日より桜洋社内親世寺開帳○同十八日より護国寺山門にて秩父札所親世寺出開帳○同晦日より牛込長命寺弁才天開帳

○三月十一日より池の坊寺にて弦巻岩本寺にて祖師開帳

○三月十六日より永代寺にて住吉神九頭龍権現開帳別当顕光寺

○四月初旬より風邪流行「人のあり小袖の裾拭髪くちもあり風さへ送き山の手」蜀山人

○四月朔日より田向院にて法院如来供養弁才天開帳

某師門にて彩窟郡吹上親世寺開帳○四月十日永代寺境内小屋居の仮や同後縄焚れて俄に傾きて死人怪我多く即死二人と云〻○保川仲町蠶繰葬といふ人天鵞絨りとめひとしるものにて其歌本を

造りて[illegible]る○四月廿六日牡丹師千種庵恒海卒九十一才称山中要助号霜翁と云百姓なり今戸称福寺に葬る

○五月十日より田向院にて河内屋井八幡宮開帳本尊あり

浅草新堀に移る寺常泉大塔村に移る大蛇済度親鸞上人像開帳

○七月十六日より柳橋神明宮内天満宮開帳○七月四日異人晃有輝卒柳町に住する本葬に

○七月廿一日儒師宿谷空〻卒名愼称孝右衛白泉と号す本姓

出る下旬に西ふるえ又焼ありと云〻○八月上旬無夜暮時小の方帝星飛

○九月二日不川卒宿新民義孫と称旅宿より失火烈風にて

為例五丁程焼亡○十月二日儒師鷹見星皐卒名允称三郎六郎つ六十二

○十月廿八日東本願寺法堂造成落成遷仏供養完伽藍を改て諸人賑し今

年開山五百五十年の遠忌なり○十一月十六日暮六時過南伝馬町三丁目より出火乾

風吹中通り一出河岸一焼抜本町河岸迄出夜九時落る凡十二町程焼亡

○十二月二日書家荒木適斎卒名翹之称九山長崎人○十二月十一日夜九時過浅草柳稲

荷裏通りより出火あり小風強く野火阿部川町より三筋町を越えて福
寺唯念寺焼る○同刻小川橋向より出火鮫洲の辺を焼失
○江戸哥舞妓年代記刊行十五巻　立川焉馬作三座芝居の基立よりの記録なり
今年より十三年迄迄不下行ハ

文化九年壬申

二月十五日より羅漢寺谷中開山念仏佛阿弥陀堂開帳○三月三日より浅草
長谷寺観音京清水を観世音開帳　永清縁起高人伝や彩を列ら○三月廿日より洲崎弁
財天開帳○三月より池の坊専応口伝流一の谷妙照寺祖師開帳○三月十四日
より押上春慶寺薬賢井開帳○寄来本小川清光寺裏門の通橋樹を多
く載る○四月廿六日三島自寛卒　六十八才名景雄称吉左衛門三島中興寺住職学和歌を能
又能書あり浅草新堀若照寺ハ葬ル
○五月十八日より芝増宗山増上寺惣菩提寺
北山卒　六十一才名信有称玄古　小石川茶町本念寺ハ葬
○五月廿五日　[illegible]開帳○同月十八日儒師山本
北山卒　六十一才名信有称玄古　小石川茶町本念寺ハ葬
○五月廿五日観相名人石竜子法服卒○七月大水

不一切不ル○七月八日法如英慶和上迁化　渋谷村宝泉寺ハ葬ル　近世の碩徳也
戦伝考市場通史終　浅草観音ハ葬ル○八月朱雀寺宝物を拝せしむ○九月巣鴨染井の植木屋ハ葬ル
何れも多く色々の形を造りて諸人ハ珍重
てなぶ物しなれい年毎ハ盛ハ多り九十余ハ文化十三年迄ハ
文より後造物ハ止ミ　代時菓の番付業門記録ハ紙の
数多くさ有ハ世ハ
花一上人植木屋何某ハ屋中の作り菊を識りて
九月ハ人の多く作り造り菓
○九月三日下総国和馬形茂代宿百姓忠義限とも八才ハ男子を生母子
恙ハ○十一月四日八宋内大地震　ハ土蔵毀を用水桶の水と称ス往来
ハ川筋茶川辺ハ強く倒傾怪人多
○十一月十七日書家田中功善卒　実歳ハ葬ル○十一月廿一日夜九時ハ龍泉寺村より
出火南刻風ハ吉原新町ハ火移り文分一廓悉く焼亡ス文より西ハの

風ふくより田町一丁目小名百姓百觀言迄一口に亢町山の宿の辺迄数焼し川を越て本所番場町の辺少し焼る　吉原丁仮宅田町聖天町亢町山の宿三ノ谷浅川ふちまで不残焼る翌て八月元に立る

○此秋吉羽町二丁目三丁目ひくうの西の裏手ふ上水の流りを引て流をら人工夫篠と号て言一丈五六尺幅壹丈四隅の左右山を作り四時の花木を栽て例ふ茶店をなし往来の人乃休み所とす天保の始より廢る

浅山より流る流の玉をそれて本をそなる所を月の宵　習山人
ひふをそなるくれも吉羽の吉ひをくきてうりぬる滝の岩根　縣麿

○十二月十九日書家箕田牛山卒　号福爰亦麻布崇厳寺ふ葬る　長男松本献吉名潤号徐山と云　○十二月歳

寒ふ国川氷あり○十二月廿九日夜五ツ時前横町より出火西小路風南倍る町より京橋竹川岸金六町迄焼亡○此年カラン糖といふ癪のくすり貴街をひるく　蛇の目の紋有る狗尚をうけ管笠をうり細袋を脇腹ふ声ふカランドウと唱ふ形浅草茅町ふ鋪をもつ出せしかども程なく廃る

文化十年癸酉　十一月閏

二月二日夜九時已三刻町武丁目裏通より出火して武家方四軒程三河町一丁目三丁目皆川町永富町松下町鎌倉町新草屋町新焼夜明て后鎮る○同十五日夜亥半刻下谷御成道美田豊前侯の南隅長屋より出火烈風ふして石川侯御屋敷を吹越し九一条店の裏ふつきて左右ふひろごり向側より仲町右側孫ゝ焼失池の端裏通り加賀侯長屋迄西ハ三枚橋向料理屋松阪屋の例ふ東ハ呉服店松坂屋の例ふ上野町山下迄焼る

○三月より浅草観音堂ふて常灯明を本神宮不断経所庚徳ち赤童子開帳○三月八日より池の坊専応ち祖師開帳○三月より隅田川木母寺ち牛島梅若丸像開帳○三月菱垣廻船仲間十組問屋株式定る　この時の人数千九百九十六人也　○三月廿日より大久保西向天満宮開帳○四月朔日より今戸八幡宮開帳○五月九日より浅草観音光明寺ち祖師開帳○夏豆愛宕山

拝殿開帳○六月愛宕山別当四福寺長顕會あり秋田侯の侍医大関大中といふ人和この頃なき老人を集めて書画の会を催ふ所なり

七十まさりなる人の茶を吹てくすりまゐりたれ自をあらのそん

○六月廿日より九日の間九代目森田勘弥寿狂言興行○六月廿日狂言師手柄岡持卒　七十九才平沢氏名常富号月成　在名高二流深川浄心寺中に葬る

○夏涼なる老女乗元の池に水車を仕掛人力を用ずして人形を動かせ物を引くに見る物なり○六月二日より田向院にて常州筑波山權現開帳○六月初旬より蕎麦を食に死るといふ俗説行れ蕎麦屋更に售ひ○八月八日書家大橋重雅卒　浅草西福寺中有心院に葬る

○十月廿八日法橋五松崔林翁卒　翁は出羽国米沢の人寛政中江戸に来り来師に学びて坊城菅亜相君より菅家の学法を授り菅家の姓を名のり五松を氏とし再び江戸に帰りお茶屋を住居とし多くの数板す今年七十一才にして卒し本所中徳寺に葬る文化七年菅家書則演義一巻を著して梓に行ふ

○十一月九日明六半時東より西方へ大二尺餘りの光物飛ぶ　武州生麦村の辺へ落て翌日の如く大なる野象のかき跡

しるく肉塊にのこりとなり　○十一月廿八日夜九時過浅川宿橋向出火三町の除焼亡せり

○同月廿九日夜宮松町西側より出火西風烈く竈河岸へ出火小風ふるひ和泉町東側より天竺町湯町草屋町西座の芝居雑色町より京物町稲荷堀酒井侯屋中きの小屋より翌朝六時過鎮火す○十二月二日巳六時より花川戸町去年焼残りくる家く音妻橋際近焼亡世話五十除日雨色くにくし小火有○十二月四日官儒尾崎二洲卒　六十九才名孝榮孫良佐　大塚氏厩島小藤氏

○十二月六日書家松會平陵卒　七十三才名芳文称三四郎　俗称仙安る小藤氏

ありてはりしるし今年地主　娼家の居宅へ囲ひとみくより町名を唱る事なり

文化十一年甲戌

正月十日夕七時過より俄小大風吹変り和こ家屋を損じ翌日初卯老寂戸妙義社東清雄を家しけるが此暴風小家根舟瑞牙舟数艘流し人多く

死ス　亀沢町ニて侍一人空中ヲ決上ニ上ル　○正月十四日雪降八代洲河岸より出火り火ヲ打て大ニ北へ焼る

○正月廿五日亜墨利加国人来ル　○二月深川砂村元八幡宮より移ル　号法印鉄弱迦牟尼仏

より移ル和四五町の間雑木の八重樹を裁ル毎夫遊観多し

○二月二日より十五日の間河橋弘法大師開帳　○三月朔日より永代橋成田不動尊開帳　芝増上寺御城大施灯米俵造り物ハ無しく形ハ成田

開帳ハ日蓮ハ絵を加へ板行して変歩行多しとなる　○三月三日より田向

院ハ下総国橋村第福寺不動尊仁王尊　大九尺開帳　○三月六日夜大雨大

雷ハ三ツ踏ル　○同八日より押上法恩寺ハ祖師大菩薩天皇諸女釈

尊法華ハ開帳　○三月十日書家佐野東洲卒　名潤彩堂　四寸ニ満ハ筆　○三月十八日ハ六十日

の間浅草観世音開帳　日月ハ外境内の神仏　三十三年目勅開帳　○同廿日より御

茅ヶ八幡宮ハ猴又ハ権現開帳　○四月朔日より渋谷金王八幡宮開帳

○四月朔日ハ下谷正法院稲荷ハ弁財開帳　弁田平永町小祠町より天サ九尺計りなる弱

ハ建て一ツ瑞の顔と蛇の顔と尾ハ細ハ人

舟月の門人　舟水ハ　○浅草ハ法恩寺ハ安鎮安寺ハ開帳　自我ハ佛くハの釜を見せ物ニ成　○同日より浅草金龍院ハ安鎮安寺ハ開帳

○同二日より中野宝仙寺ハ動尊開帳　○同八日ハ四谷新宿ハ安稲荷ハ北十一面

観世音開帳　○同十九日より西新井弘法大師開帳　○四月ハ七月中旬江戸

及諸国大旱魃　都下門ハ井を建て寝を接ル　○六月十八日百姓流華道の師耕

元卒　号雅耕雲門人ハ今年七十八才赤坂法華ハ　小菜ハ分ハ子三年人ハ為ルといハ

○七月朔日より田向院ハ下河州

蛭井八幡宮ハ権現開帳　○七月朔上ハ羽村柱堀名代何栗　宮許

を建て勧化の為武家町屋を巡行す　○七月ハより徳本上人ハ石川

伝通院ハ下ハ諸人ハ十念を授ル　老幾の系譜　葉集録

○秋護国寺観世音開帳　本堂群集ハ　○十月廿日夜上野御本坊火　○十月書家

田中玉峰卒　名ハ則　称収光　○十月ハ浅草ハ奥山ハ謎坊主とハ若ハ　狂智ハ　ハ者

の盲坊主ハ産ハ有りて夜ハ十ハ九才　板を出ル十八九才

ハ下ハ人ハ有りて　ハ解ハ　ハ人ハ有りて

ハ下ハ人ハ有りて　ハ解ハ　ハ人ハ有りて

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

て名を書るとの心を雪の如く謎をとく解くたちん是を学ひ学ひの向あるいも出れとも
ゆい及ひさりしあり　翌年美濃うけさ氏美の霞ゆ達をの雪さとけて笑ふ山〳〵　曳尾庵元亀

○十一月七日儒師中島豊洲卒　名幹　称周吉　号松南　秋香庵　年八才

浅草日輪寺に葬る京の笠村と云ふ人〳〵

○十二月七日夕七時聖堂の内学問所火

彼ふ似る芙蓉の画賛多くなり

○墳墓圖志三巻写成　一名秋風抄作者ふ詳　江戸人の墓碑をあつむ

文化十二年乙亥

正月吉十月六日より雲霞多浮　二月廿日迄　大雪江戸と紙路の入こと　廿八夜より　皆人毎年ちぎりあるあり　曳尾庵

○三月十一日より中山法花寺奥院祖師□光開帳○四月朔日より

鷹尾天現寺毘沙門天開帳○同十五日より江の島上の宮弁才天開帳　江戸名所案内図

○四月日光山二百回御神忌御法会○六月朔日より田向院にて狩衣大

日向山大陽寺妙法伝大士開帳○六月二日拍一君尾形光琳の百年忌修らる

○六月廿五日書家浜辺東洲卒　名彰　称文平　浅草祝言寺ふ葬○徳本上人伝通院本堂前ふ

隅ふ大日堂再建○今年ふ肇り朝鮮の異ふ院ふ写ル文政の始を都下の貴賤

園ふ栽て盆ふ移して延命を設く　中ごろ　牛ひく花のさかりすぎしかな　遠橋山人

○七月朔日ふ田向院ふて甲斐善光寺如来開帳○同十六日より下谷徳大寺

摩利支天開帳○七月廿一日長遠寺ふて下総谷法蓮寺祖師開帳○同日より

浅草金龍山ふて出羽国湯殿山黄金堂ふて大日如来開帳　天宝ふ茶筌ふ斎〳〵子記の

用ひる　紐まわりふ当紐ふ紫縮緬を

○十二月雨森牛南卒　京ふ名京真一号松蔭　医ふして詩を善くス　○武蔵野話刊行　不沢村　秋篠雇傑著

同十三年丙子　八月国

正月廿日寄人安田躬弦卒　号乗水　称一巻　浜川ふ丁慧然寺ふ葬○二月十三日土肥鹿鳴卒　七十餘才　石巻雄　秀太郎　易学ふ

委しき人〳〵

芝金比院ふ葬　○三月三日ふ本下川浄瑠璃ふ菜師妙菜開帳○三月十五日ふ田向院ふて同

毛祐元ふ年号開帳○三月十六日ふ浅草ドブ店長遠寺ふて鎌倉市営ふ祖師開

帳○同十八日ふ湯島社地ふて野狐浄山ふ地蔵ふ開帳○同日より池の端ふ

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

祖師開帳○四月朔日より護國寺にて相州松本親世寺開帳○四月廿八日より浅草茅
原法善寺にて池之張立て祖師開帳○初夏より五月迄江戸疫癘流行人多く
死す○六月三日朝葺屋町桐長桐葉屋梁長十二間未に三寸折る○年数経る間年数焼の塵埃の積り
なり寄せ集めし所なり○同年三月廿五日の夜南小芝居不審出来り○小伝馬町の紫やめやめと人々云ひあひける所芝居休の日
傍を通りて頻に折るゝ風もなかりしかどもなぜ折るゝやと自然と折るゝまれど怪事人々のうわさ
○六月三日申刻吉原京町三丁目より出火一廓焼亡す仮宅田町五丁目山の宿町○五月十七日
西人鈴木芙蓉卒六十余名雅一号花蓮浅草八軒町大伝馬町に葬る○紫草と始て称する所の薬草の名称は
鬱金草なり○六月十八日より田向院にて府中深大寺元三大師開帳○同八月三日四日
大風多く人家を損し樹木を倒す江戸近外出水東海道筋の諸楼倒れ家々流れ水家に入る
○九月七日戯作者山東京傳終岩瀬氏名醒称伊兵衛年六十八田向院に葬る○俳家奇人誹諧師
編集

○九月梅花返り咲き○九月廿夜小入て いつくともなく物子を乞う太鼓を打
つなるといふ○九月廿二日より幸橋御門外晶怪小路に於て親世寺法清賜勅進
興行あり月数十日を期とす興行の場中より失火して丸焼に成る
楽屋一条小路に成て再び興行を始めて興行中盛年九月十五日にて終る○十一月十九日俗人
不随成美卒俗称井筒屋八郎右衛門
車坂町蓮花寺に葬る

文化十四年丁丑

正月十二日暁八時雨中彩雲物所南側より出火西尾芝居焼亡岩代町大坂町
雲洲町人形町通り焼○正月中旬俳師葛飾雲庵年八十卒世事の業は年
不幸野辺の「白中小最早死彩の」句を残せしと云わるとい
息も祖師開帳○同二日より永代橋落成明神開帳○同日より葛西花又村
鬱大明神開帳○同三日より青山長光寺にて雑波撥江泳院如来開帳○同十日より
十五日より浅草観世寺開帳○同日より浅草玉泉寺にて初午□□天拝祖師開
帳○同十日より浅草大仏にて豫州海長寺彩色祖師開帳○青山梅窓院恭平
親世寺開帳○同五窓寺番像観世寺開帳○四月朔日より芝神明宮地内にて

相模梅澤吾妻花現開帳○同日より不忍池弁才天門内に上州狩田医師旭某師如来開帳○四月朔日萩野橋谷菊平妙谷義名八信敏天愚孔平と号し俗称新門と云雲丹屋の史居之助年百才不谷某宗旨に義に神仏千社参りと号して札を張る不絶年のうち刷毛を分て数十大の石塔の石根うゑとなる安〳〵る夫式人より始めり此の寛政の比より始り天保の比迄盛わしく雲を結ひ群を分しも有り少保堂社といへども悔るものなくうの札を貼り来りきふのうちの人を多くもて大芽ふ出分しも有り少保ゆうとれを禁ぜれり

○四月十七日官医板田元伯卒　七十八才名翼字懿叔

○四月十九日僧師雲中菴完来卒　七十八才名模称孫八

○五月四日官儒吉賀精里卒　七十八才名撲称孫八

○五月より七月まで江戸并諸国大旱○八月九日官儒岡田寒泉卒　七十一才名恕称源助

○十月廿六日最上流算術の師會田算左清一安形卒　七十一才故田校卒の門人文政二年刊十月廿六日分未

○同日浄瑠璃語十寸見河太死　山谷某某院ふ某八死後称して七世目の某の名号を継ぐ

○十月廿二日晴天未刻江戸市中雷鳴の如き響くて光り物空中を飛ぶ　武州八王子横山宿の畑中に落ちる長三尺幅七寸厚六寸程燻りる石

此年間記事

文化の始より淺草る七月十日の四方六千日来ふ赤き蜀黍を雷除として高ふ炊る○淺草る奥山に社を現の后人磨の社を建る社辺ふ山吹萩の数を載景色を造れり○目黒村ふ富士山を築く○日暮里青雲寺の布袋并巨像を修造院へ移る○和合神の画像を作り始む　其図人の初る不知いそ近比波多野の板ふ多くあり画上ふ題して和合生万福日進太平

銭隨亭高字書家事古北図と云う貴人も常ふ床ふ掛られしう大槻平次弟溪少尚鑿に行し比清人朱析梅ふ和合神の号を問られ清答ふ書山拾遺ありとひつてふ一若てるゆを用人の境浦筆話ふ載せしう又清人蔣士詮ら忠雅集ふ画和合神の詩あり

編輯燕居雑話ふ〳〵〳〵了

○叶福助といふる泥塑人を作り出るりて大やせり　是ふ昔よりもてのそゞる三平二図女ふ対してつくりまうけしものあり

○江戸坂田郡國友村鉄炮鍛冶國友藤兵衛能当といふ人蘭学の醫師山田大園ふ学び蘭人雅乃来る不の鉄囊中に風を発め火薬火縄を用ずして風の勢を以て放つの鉄炮へ別ふ新意を加へ立文を凝らし風銃又雷銃と号して製し始む　蘭名ウインドルウルと云文政のそのあり世ふ行る按ふ蘭製の一發ふ和製ハ二發三発ふ及ふとい

○文化七八年の比より石菖蒲の異品を玩ぶ事盛ふ行れ鬻ふ行れ一株ふ倍し
珍玩これを賞玩ス 所謂白板三種黒竜芙金虎斑 紗笠 雲山 虎の巻 残雪 賀夜 天下 天鵞絨 通系 青葉 翠入 ふ〻の名なり
○此時代名家△儒家・山本北山・亀田鵬斎・大窪天民・館柳湾・業地五山・△書・輪池隆代義・中村佛庵・浜辺
東河・恭星池・関克明・杉本竜深・董堂敬義・中川由義・三井親孝
△狂哥 芝新・蜀山人・六樹園 坂盛・文〻舎 鶯子丸・三陀羅法師・千首楼堅丸・銘〻亭
和樹・琴通舎英賀△俳諧・祇田房小如・国表・自然堂風朗・不随庵成美・八朶
国蕙・杜田喜庵・護物・小義庵・頑嶺△画・狩野伊川院法印・同晴川院
法印・同英川・鄭信・花一・若谷文晁・円文一・依田井谷・英一蛙・長谷川雪旦
鈴木南嶺・大長雲峰・春木南湖△鑄物師・村田整民△碑・碣彫刻・窪世
祥△金彫・三戸・法眼・久△刀鍛冶・水心子正秀・子柄山正重・大慶直胤

△蒔絵師・原東山・羊遊 坂内寛哉△浮世絵・葛飾戴斗・歌川豊国・同豊
廣・同国貞・同国丸・喜斎・歌川重信・泉守一 渾名 目吉
深川・堤等林・月麿・菊川英山・勝川春亭・同春扇・葛飾北斎・川美丸△花形と
いふる俗花の手法行る○神仏縁歌・義田伴・勢義・龍・文部日向行る
○不〻盛衰年々ふ減ス○南艇人八十爲冨五郎不白の門ふ入て茶事を
よくス 根岸 ○根岸田先生庭中長世七尺横巾八除の岩柏あり一株の名樹
あり文化の比迄ハ盛の比より下の繁人〻ふ集ひしが惜むべし文政始の比枯
果ス○尾久村深山吉林と云る人の国中ふ牡丹数株を栽培花の比
又物言かりしふ文化中より絶ス○文化の末大坂の竹本津賀太夫江
戸ふ下り樂屋ふ於て謡れをかせり 文政中迄江戸ふ ○立川馬馬落咄しの廣ふる
起ル三笑亭可楽朝寝坊愛樂出て隆盛ふ行る○狂言狂の模様遠州純

839
8
62

子の種樣又伊勢漆といふ漆物をつくる伊勢漆といふは蒙山比しいふ名なるべし○文化の始より唐紙紙形る豆州熱海旅舍のなるべ今井某これを製し始江戸へ出して商ひむ

○和製唐紙始る　城内の人朝比奈茂樹通称中川俊右衛門といふものくくり出し若年の頃江戸へ下り下谷御徒町に住し文化三寅年来官辭せる後文政十寅年深川扇橋小奚地を買求てはじめこれを製せしめて世に初て又板十百枚五百の紙を製して室業紙と号し天保元年寅十月六十八歳にて歿せり

○ギヤマンの器物を製し始む其製硝子のみにあらずして○琉球扇をつくり出せり○居風呂の鉄炮火を焚て湯の中へ金魚或は緋鯉の類を入れ

して遊ぶ物とし江戸國淺草御蔵前に始まれり

○狐村玉地稲荷社へ疫病を患ふるものの祈願して奚驗を得るよしあて

奈猶与る事始る

武江年表巻之七終

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62

ガラス使用